



教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：1,520千円（令和元年度～令和3年度）

「染色技法」の発達と「紋様デザイン」の展開

目的・概要

目的：「染色技法」の発達にともなう、「紋様デザイン」の展開を、京都や東北、関東など染色紋様の原点となる地から、浜松と遠州でさらに多様化する経緯と流通を調査する。浜松市博物館等学外機関との研究連携も推進する。

概要：①染色型紙および型紙彫刻関係資料（彫刻刀、彫刻台、コホン、絵刷り等）、布地、着物などのマーキング、カード目録化、写真撮影、②経年劣化した型紙の修復作業、③展覧会開催（令和3年度）、をおこなった。

期間

平成31年4月1日～令和4年3月31日

研究担当者

文化政策学部 芸術文化学科 教授 立入 正之（研究代表者）
文化政策学部 文化政策学科 教授 四方田 雅史
デザイン学部 デザイン学科 准教授 天内 大樹
静岡理科大学 富田 晋司
浜松市博物館 栗原 雅也

スケジュール

随時 ①型紙5000枚のカード化と写真撮影、目録作成
随時 ②収集した型紙彫刻関係資料、布地、着物などのマーキング
随時 ③経年劣化した型紙の修復、トリアージ
令和3年12月 ④各地（東北、北陸、関東、近畿）での調査

研究成果

コロナ感染防止対策の大学方針に従い、令和2年4月から令和3年9月の期間、調査研究室（北441室）での作業人数を毎回4名（通常は10名ほど）に制限したため、作業進行は当初計画（令和2年1月）から大きく遅れたが、成果は次の通りである。

概要：【令和2～3年度】

- ①機械染色型紙（市博物館所蔵、学内に蔵置）約2000枚のカード化と写真撮影。
- ②型紙彫刻関係資料（彫刻刀、彫刻台、コホン、絵刷り等）、布地、着物などのマーキング、カード化、目録作成写真撮影。
- ③経年変化した型紙の修復、浜松市博物館学芸員2名による学生指導。
- ④「型紙等史料調査」浜松市博物館、学外研究者・機関との共同調査。
- ⑤関東各所での、研究分担者による調査。

【令和3年度】

- ⑥マンガン染調査。
- ⑦彫刻技法と紋様デザインの類型化に着手。
- ⑧展覧会「型紙レスキュー、修復報告展」開催（当初は令和2年の開催予定→COVID-19により、令和3年に延期）（共催：浜松市博物館、会期：令和3年12月1日～10日、会場：学内1階中央ホール）

【令和4年度以降の調査研究成果発表の準備】

- ・研究報告・発表（展覧会、シンポジウム等予定）の準備。
- ・報告書刊行（令和6年度予定）の準備。



今後の研究成果の還元方法

【令和4年度】

- ・研究分担者に加え、10～20名の学生メンバーによる研究チームを、新たに構成。
- ・型紙等史料について、特に染色型紙の紋様デザイン調査を追加項目とする。
- ・本学に蔵置した研究史料と他機関所蔵史料を、画像データ化の上調査。
- ・立命館大学ARC、元興寺文化財研究所との修復等の実作業、研究会を適宜開催。
- ・浜松市博物館分館（水窪9月、春野10月、細江11月）で修復報告展示会開催。

【令和5年度】

- ・本学、共同研究者所属機関で、「研究報告書作成」「口頭発表」をおこなう。
- ・浜松市博物館本館、研究協力機関にて巡回展開催。

【令和6年度】

- ・報告書刊行